

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
朝日医療大学校		平成13年3月29日		草地 清志		〒 700-0026 (住所) 岡山県岡山市北区奉還町二丁目7番1号 (電話) 086-255-2000			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人朝日医療学園		平成3年3月25日		理事長 津島伸章		〒 700-0026 (住所) 岡山県岡山市北区奉還町二丁目7番1号 (電話) 086-214-5522			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
医療	医療専門課程	鍼灸学科(午前)		平成29(2017)年度	—	平成25(2013)年度			
学科の目的	学校教育法及びあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律に基づき、はり師、きゅう師に関する知識・技能を教授し、もって医の倫理、科学的精神の確立を創造できる有資格者を養成するとともに国民保健に寄与する人材を育成することを目的とする。								
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格、等)	主な教育内容:厚生労働省の定める、あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師学校養成施設のカリキュラムの規則に合わせ、基礎分野・専門基礎分野・専門分野において人体の構造や機能、東洋医学、西洋医学的な病能の把握等を学習する。 取得可能資格:はり師、きゅう師								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	
		94 単位	65 単位	10 単位	19 単位	0 単位	0 単位		
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率				
90 人	96 人	0 人		0 %	0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		24	人					
	■就職希望者数(D)		23	人					
	■就職者数(E)		21	人					
	■地元就職者数(F)		10	人					
	■就職率(E/D)		91	%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		48	%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		88	%					
	■進学者数		1	人					
	■その他								
	(令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL			無					
当該学科のホームページURL	https://oky.asahi.ac.jp/gakka/shinkyu/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間				
	うち必修授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間				
	(B:単位数による算定)								
	総単位数				94 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				13 単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数				0 単位				
	うち必修単位数				94 単位				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				13 単位				
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数				0 単位				
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				0 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				2 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				3 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				3 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人				
	計				8 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				7 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学の教育目標は「教育基本法を順守し、とりわけ、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し勤労を重んじる態度を備えた人材、それぞれが地域社会に対して何をやれば貢献できるかが分かる人材、そしてDiscipline(躰・規律)を身につけ社会から迎え入れられる人材を育成する」ことである。

基本的な視点として以下の2項目に重点を置き教育課程を構成している。

- 1. 専門基礎分野を配置し、豊かな人間性を養い且つ医学の基本を習得させる。
- 2. 専門科目と実技を連携させて配置し、現場を重視した職業観を養成するために、自らが主体的に臨床実習へ参加していく態度を身につけさせる。

カリキュラム作成において、具体的に以下の項目において企業・業界関係者の委員からの提言を受け入れ、教育内容の検討を図れる関係を構築できるように進める。

- 1. 養成教育の開始時期における動機づけのための学習内容について
- 2. 臨床実習の事前事後の指導内容について
- 3. より現場に即した方法で医療サービスを提供するための教育内容について

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成において、企業・業界団体等との連携により、産業界や職業人が必要とする最新の知識・技術・技能を反映させるため、企業・業界団体等からの意見を十分に活用し、教育課程の編成を定期的に行うことを目的として、教育課程編成委員会(以下「委員会」という。)を設置している。委員会は、学修成果に関する評価を行い、教育の質を維持・向上させる。国家試験出題基準や社会情勢、臨床場面の状況を踏まえた専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫等を行ううえで必要な助言を行うものとする。また、前項の評価や協議の結果等を学科会議の中でさらに検討を加え、教育目標に準じ、かつ関連業界の動向に沿った新カリキュラムを作成する。

* 教育課程編成の手順

- 1. 医療福祉業界の法制度、動向の把握、研修、企業・業界団体等から意見をいただく。
- 2. 学科会議にて教育課程編成について検討を行う。
- 3. 教育課程編成委員会を開催し、企業・業界団体から意見を伺う。
- 4. 教育課程編成委員会で協議された意見をもとに学科会議にて教育課程を決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
荒尾 賢	一般社団法人 岡山県理学療法士会	2025.4.1～2026.3.31(1年)	①
塚崎 康之	公益社団法人 岡山県柔道整復師会	2025.4.1～2026.3.31(1年)	①
石部 春子	公益社団法人 岡山県鍼灸師会	2025.4.1～2026.3.31(1年)	①
中家 明美	社会医療法人 光生病院	2025.4.1～2026.3.31(1年)	②
松尾 敬子	(元)独立行政法人 国立病院機構 岡山医療センター	2025.4.1～2026.3.31(1年)	②
小橋 美由紀	(公財)岡山市ふれあい公社 地域包括支援課介護予防係	2025.4.1～2026.3.31(1年)	③
三宅 智恵子	医療法人なかの歯科クリニック	2025.4.1～2026.3.31(1年)	③
松沢 義彦	松沢治療院	2025.4.1～2026.3.31(1年)	③
岡田 幸仁	雲風堂接骨院	2025.4.1～2026.3.31(1年)	③
小寺 一史	鍼灸整骨院レボラ	2025.4.1～2026.3.31(1年)	③
齋藤 綾兵	ノウハウ岡山整体	2025.4.1～2026.3.31(1年)	③
松森 淳	社会医療法人盛全会 西大寺病院	2025.4.1～2026.3.31(1年)	③
鈴木 茂和	株式会社アールケア	2025.4.1～2026.3.31(1年)	③
末房 眞美子	朝日訪問看護ステーション	2025.4.1～2026.3.31(1年)	③
寺地 幸喜	備前市国民健康保険市立吉永病院	2025.4.1～2026.3.31(1年)	③
石原 大裕	医療法人医誠会 児島中央病院	2025.4.1～2026.3.31(1年)	③

草地 清志	学校長	2025.4.1～2026.3.31(1年)	
前谷 智佐江	教務部 部長	2025.4.1～2026.3.31(1年)	
原田 亜樹	看護学科 学科長	2025.4.1～2026.3.31(1年)	
多賀 一浩	理学療法学科 学科長	2025.4.1～2026.3.31(1年)	
武村 紀裕	言語聴覚学科 学科長	2025.4.1～2026.3.31(1年)	
岡崎 恵子	歯科衛生学科 学科長	2025.4.1～2026.3.31(1年)	
北村 圭司	鍼灸学科 学科長	2025.4.1～2026.3.31(1年)	
横見瀬 ゆかり	柔道整復学科 学科長	2025.4.1～2026.3.31(1年)	
若杉 幹生	サポートセンター センター長	2025.4.1～2026.3.31(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 2024年6月14日(木)19:00～21:00

第2回 2025年3月 7日(金)19:00～20:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

国家資格の取得に対しての意欲を上昇させる必要があり、学生がはり師・きゅう師の免許取得後どのようなことができるようになるのかを明確にし、資格取得の必要性を理解してもらう教育が重要。

専門鍼灸特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲという科目を三年時に、医療経営学という科目を二年時に実施し、はり師・きゅう師の職業に関しての教育を取り入れている。実際の現場での技術等を重点的に教育している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため、実習・演習等の授業を企業等と連携して行い、最新の知識・技術及び技能を修得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教員資格を有す企業等の職員と講師契約を交わし、実習・演習等の科目担当教員としてシラバスの作成、授業の実施、定期試験の実施を行い、大学校協議会の審議を経て、学校長が認定する。

(3)具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
コミュニケーション論	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	医療分野で必要なコミュニケーション能力を身に付けるため、現場等様々な環境での医療人としての対応について教授を受ける。	神戸女子大学

人文科学Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	医療人としての倫理観を身に付けるため、生命倫理、社会倫理等について教授を受ける。	人間総合科学大学
人文科学Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	東洋医学的な考えの理解を行う際に必要な養生訓について教授を受ける。	人間総合科学大学
社会保障制度と職業倫理	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	社会保障について学習することにより、医療人としての知識の教授を受ける。	岡山商科大学
鍼灸臨床実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	介護の現場に必要な知識・技術の教授を受ける。	朝日医療クリニック

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員一人ひとりの専門性に合わせた研修や教育方法やコミュニケーション能力の向上の為の研修に参加し、絶えず主体的に技術、知識の修得に励み、実践的な指導力の向上を図る。朝日医療大学校 教育職員研修規程に基づき、企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を学科長の計画のもと、学校長および理事長が承認をする。指示を受けた教員は、就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得し、学生指導の効果を高める。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 第73回公益社団法人全日本鍼灸学会学術大会 宮城大会	連携企業等： 公益社団法人全日本鍼灸学会
期間： 2024年5月24日（金）～26日（日）	対象： あはき師
内容： つながり、通じ、いかす鍼灸	
研修名： 全日本鍼灸学会 中四国支部A・B講座	連携企業等： 公益社団法人全日本鍼灸学会
期間： 2024年7月21日（日）	対象： あはき師
内容： 鍼灸と痛み up to date	
研修名： 公益社団法人全日本鍼灸学会 中四国支部学術集会	連携企業等： 公益社団法人全日本鍼灸学会
期間： 2024年10月20日（日）	対象： あはき師
内容： 生命の本質、からだ、ひ、鍼灸師の新時代へ	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 公益社団法人東洋療法学校協会 第47回教員研修会	連携企業等： 公益社団法人東洋療法学校協会
期間： 2024年8月8日（木）～9日（金）	対象： あはき師
内容： 不易流行：デジタル化が教育現場で多用される時代に感性を見つめ直す	
研修名： 第1回朝日医療大学校教員研修会	連携企業等： おかやま丸の内法律事務所
期間： 2024年9月12日（木）	対象： 朝日医療大学校教職員
内容： ハラスメントについて	
研修名： 第2回朝日医療大学校教員研修会	連携企業等： マイナビ
期間： 2025年3月19日（木）	対象： 朝日医療大学校教職員
内容： これからの専門学校の現状について	

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	公益社団法人岡山県鍼灸師会 第1回学術講習会	連携企業等:	公益社団法人岡山県鍼灸師会
期間:	2025年5月25日(日)	対象:	あはき師
内容	ホルモンは美のスイッチ		
研修名:	公益社団法人岡山県鍼灸師会 第2回学術講習会	連携企業等:	公益社団法人岡山県鍼灸師会
期間:	2025年8月3日(日)	対象:	あはき師
内容	古典鍼灸を考える		
研修名:	公益社団法人岡山県鍼灸師会 第3回学術講習会	連携企業等:	公益社団法人岡山県鍼灸師会
期間:	2025年9月21日(日)	対象:	あはき師
内容	ランナーにおける下腿から足部のスポーツ傷害		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	公益社団法人東洋療法学校協会 第48回教員研修会	連携企業等:	公益社団法人東洋療法学校協会
期間:	2025年8月7日(木)～8日(金)	対象:	あはき師
内容	変化する社会とスポーツの力		
研修名:	第1回朝日医療大学教員研修会	連携企業等:	市場 恵子
期間:	2025年9月11日(木)	対象:	朝日医療大学教職員
内容	合理的配慮について		
研修名:	第2回朝日医療大学教員研修会	連携企業等:	未定
期間:	2026年3月18日(水)	対象:	朝日医療大学教職員
内容	未定		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校における自己点検・自己評価活動の客観性・公平性を担保し、教育活動その他の学校運営の改善等に活用するため、学校関係者による評価を行い、その意見を反映させることを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念、目標、育成人材像
(2)学校運営	運営方針、運営組織、情報管理
(3)教育活動	目標設定、カリキュラム編成、成績評価・単位認定、資格取得の指導体制
(4)学修成果	資格取得率、就職率、退学率、学生の社会的活動
(5)学生支援	就職・進学支援、健康管理、学生生活・相談、保護者との連携、卒業生支援
(6)教育環境	施設・設備等、学外実習等、防災・安全対策
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8)財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	個人情報保護、学校評価
(10)社会貢献・地域貢献	社会・地域貢献、生涯学習、ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

鍼灸での保険診療に関してや具体的な臨床場面での鍼灸施術の活用法などの就職後に必要な知識、技術の習得が今後の業界では必要とされるとの提言が、専門的な鍼灸施術の方法や社会保障や保険制度のについての授業の枠組みを増加させていっている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
石部 春子	公益社団法人 岡山県鍼灸師会	2025.4.1～2026.3.31(1年)	企業等委員
松沢 義彦	松沢治療院	2025.4.1～2026.3.31(1年)	企業等委員
荒尾 賢	公益財団法人 操風会 岡山里ハビリテーション病院	2025.4.1～2026.3.31(1年)	企業等委員
藤田 隼平	一般社団法人 岡山県言語聴覚士会	2025.4.1～2026.3.31(1年)	企業等委員
松尾 敬子	(元)独立行政法人 国立病院機構 岡山医療センター	2025.4.1～2026.3.31(1年)	企業等委員
大枝 砂与	社会医療法人 鴻仁会 岡山中央病院 経営企画室 統括看護部長	2025.4.1～2026.3.31(1年)	企業等委員
中山 良子	地方独立行政法人 岡山市総合医療センター 岡山市立市民病院	2025.4.1～2026.3.31(1年)	企業等委員
岡田 幸仁	雲風堂接骨院	2025.4.1～2026.3.31(1年)	卒業生
門田 弥生	保護者	2025.4.1～2026.3.31(1年)	保護者
三浦 貴久子	岡山理科大学 参与	2025.4.1～2026.3.31(1年)	高校等評価委員
鈴木 茂和	株式会社アールケア 専務取締役	2025.4.1～2026.3.31(1年)	専門家
橋本 泰典	橋本義肢製作株式会社 代表取締役社長	2025.4.1～2026.3.31(1年)	専門家

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://oky.asahi.ac.jp/inforelease/>
公表時期: 令和7年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

前年度の学校関係者評価を企業等の兼任教員にフィードバックし、当該年度の学科運営方針、教育活動、学生の動向等について意見交換を行うことにより、企業・学校関係者と連携および協力の推進を図る。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	沿革、教育理念、教育目標、育成人材像
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、成績評価、国家試験対策、国家試験合格率
(3) 教職員	研修制度、教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職指導、就職説明会開催、卒業後サポート、臨地・臨床実習
(5) 様々な教育活動・教育環境	単位互換制度、学校行事、課外活動、図書室、自習室
(6) 学生の生活支援	クラス担任制、スクールカウンセラーの設置
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、奨学金、学費サポートプラン、学費免除制度
(8) 学校の財務	財務情報
(9) 学校評価	自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://oky.asahi.ac.jp/inforelease/>
公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			人文科学Ⅰ	東洋医学について「こころ」と「からだ」の関連性	1 前	30	2	○			○			○	○
○			人文科学Ⅱ	現代における健康観や人生観、食生活、医薬との関わり方	2 前	30	2	○			○			○	○
○			人文科学Ⅲ	仕事や生活の場でのよりよいコミュニケーションスキルの修得	2 前	30	2	○			○			○	○
○			自然科学Ⅰ	細胞の構造，細胞分裂と遺伝子，栄養・消化と吸収，漢方薬	1 前	45	3	○			○		○		
○			自然科学Ⅱ	循環器、リンパ	1 後	45	3	○			○		○		
○			コミュニケーション論	医療者に必要なコミュニケーション	1 前	30	2	○			○			○	○
○			人体の構造Ⅰ	上肢の骨、筋、脈管、神経	1 前	30	1	○			○		○		
○			人体の構造Ⅱ	下肢の骨、筋、脈管、神経	1 前	30	1	○			○		○		
○			人体の構造Ⅲ	体幹の骨、筋、脈管、神経	1 後	30	1	○			○		○		
○			人体の構造Ⅳ	消化器の構造と機能	1 後	30	1	○			○		○		
○			人体の構造Ⅴ	内分泌、泌尿器、生殖器の構造と機能	1 後	30	1	○			○		○		
○			人体の構造Ⅵ	神経系の構造	2 前	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人体の構造と機能Ⅰ	呼吸器、循環器、内分泌系の機能	1後	30	1	○			○		○		
○			人体の構造と機能Ⅱ	人体の構造と機能に関する複合的学習	2後	30	1	○			○		○		
○			人体の機能Ⅰ	泌尿器、生殖器、内分泌系の機能	1後	30	1	○			○		○		
○			人体の機能Ⅱ	神経系の機能	2前	30	1	○			○		○		
○			人体の機能Ⅲ	筋、運動、感覚、身体活動の協調についての生理学	2後	30	1	○			○		○		
○			運動学	人体の構造と機能，運動のメカニズム	2後	30	1	○			○		○		
○			病理学概論Ⅰ	病因，循環障害，退行性病変，進行性病変	2前	30	1	○			○		○		
○			病理学概論Ⅱ	炎症，腫瘍，免疫異常・アレルギー，先天性異常	2後	30	1	○			○		○		
○			衛生学・公衆衛生学Ⅰ	健康の概要，健康管理，食品と栄養，食中毒，運動と健康，環境，日常生活環境，環境問題，産業保健	1前	30	1	○			○		○		
○			衛生学・公衆衛生学Ⅱ	精神保健，母子保健，成人・高齢者保健，生活習慣病，介護保険，感染症・感染症予防，消毒法，医療廃棄物，疫学，保健統計	1後	30	1	○			○		○		
○			臨床医学総論Ⅰ	診察の概要、四診、生命徴候、全身の診察	2前	30	1	○			○		○		
○			臨床医学各論Ⅰ	呼吸器、腎尿路、心、血液・造血器疾患	2前	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			臨床医学各論Ⅱ	感染症、消化器、肝胆、代謝・栄養疾患	2後	30	1	○			○		○		
○			臨床医学各論Ⅲ	神経、膠原病、内分泌疾患	2後	30	1	○			○		○		
○			臨床医学各論Ⅳ	整形外科、一般外科	3前	30	1	○			○		○		
○			臨床医学各論Ⅴ	婦人科、皮膚科、耳鼻科、精神科、心療内科疾患	3前	30	1	○			○		○		
○			臨床医学各論Ⅵ	整形外科疾患	3前	30	1	○			○		○		
○			リハビリテーション医学	リハビリテーションの概念と歴史的位置付け，医学的リハビリテーションの対象・評価方法	3前	30	1	○			○		○		
○			医療概論	医学の歴史，現代日本の医療・医療倫理の確立	2前	30	1	○			○		○		
○			関係法規	はり師・きゅう師に関する法律，医師法・医療法・薬事法・その他の医療従事者に関する法規	3前	15	1	○			○		○		
○			社会保障制度と職業倫理	社会保障制度と職業倫理	1前	15	1	○			○			○	○
○			東洋医学概論（基礎）Ⅰ	陰陽論・五行説，東洋医学の生理	1前	30	1	○			○		○		
○			東洋医学概論（基礎）Ⅱ	東洋医学的見地における身体の生理・解剖的思考方，病因・症状の分類	1前	30	1	○			○		○		
○			東洋医学概論（基礎）Ⅲ	臓腑の働き，臓腑の弁証	1後	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			経絡経穴概論Ⅰ	経絡体系の修得，経穴の意義・部位の取り方，経穴の解剖学的意義と理解，経絡・経穴の現代的研究	1 前	30	1	○			○		○		
○			経絡経穴概論Ⅱ	経穴・流注，奇経・奇穴の概要，経絡・経穴の現代的研究，要穴表	1 後	30	1	○			○		○		
○			取穴基礎	経穴の取穴法	2 後	30	1	○			○		○		
○			臨床経絡経穴学	臨床での経穴の使用方法	3 前	30	1	○			○		○		
○			基礎はりきゅう学	はり、きゅうの種類や基本的な手技、使用方法	1 前	30	1	○			○		○		
○			鍼灸理論	鍼灸治療における作用機序，治療効果	3 前	30	1	○			○		○		
○			東 洋 医 学 概 論 （臨床）Ⅰ	十二経脈の病証、奇経八脈の流注と病証、五臓六腑の生理機能と作用	2 前	30	1	○			○		○		
○			東 洋 医 学 概 論 （臨床）Ⅱ	東洋医学における診察法	2 後	30	1	○			○		○		
○			東 洋 医 学 概 論 （臨床）Ⅲ	東洋医学的な治療方針、選穴	3 前	30	1	○			○		○		
○			鍼灸診察概論	神経系の診察方法，運動機能検査における検査方法・評価方法, 病態生理, 適応判断	2 前	30	1	○			○		○		
○			鍼灸臨床論Ⅰ	今後経験する機会の多い症候の原因・病態・症状を東洋医学的見地	2 前	30	1	○			○		○		
○			鍼灸臨床論Ⅱ	痛みの生理	2 後	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			鍼灸臨床論Ⅲ	今後経験する機会の多い症候の原因・病態・症状を西洋医学的見地	3 後	30	1	○			○		○		
○			東洋医学臨床論Ⅰ	鍼灸治療において遭遇しやすい疾患，治療を行う上で必要な弁証法や理論	3 後	30	1	○			○		○		
○			東洋医学臨床論Ⅱ	鍼灸治療において遭遇しやすい疾患，治療を行う上で必要な弁証法や理論	3 後	30	1	○			○		○		
○			専門鍼灸特論Ⅰ	美容領域の鍼灸	3 前	15	1	○			○		○		
○			専門鍼灸特論Ⅱ	スポーツ領域の鍼灸	3 前	15	1	○			○		○		
○			専門鍼灸特論Ⅲ	介護・小児分野の鍼灸	3 前	30	1	○			○		○		
○			医療経営学	鍼灸院の経営方法について	2 通	30	1	○			○		○		
○			社会鍼灸学	現代社会における現状と課題，はり師及びきゅう師の果たすべき役割	3 後	45	2	○			○		○		
○			体表解剖実習	生体観察， 体表解剖， 経穴取穴	2 前	30	1	○			○		○		
○			鍼灸基礎実習Ⅰ（はり）	鍼の基本的な扱い方，衛生管理，タオルを使ったドレーピング法，基本刺鍼技術	1 前	75	2	○		○	○		○		
○			鍼灸基礎実習Ⅱ（はり）	鍼の基本的な扱い方，衛生管理，タオルを使ったドレーピング法，基本刺鍼技術	1 後	75	2	○		○	○		○		
○			鍼灸基礎実習Ⅲ（きゅう）	きゅうの基本技術，必要な知識・心構え・安全・衛生管理	1 前	45	1	○		○	○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			鍼灸基礎実習Ⅳ (きゅう)	きゅうの基本技術，必要な知識・心構え・安全・衛生管理	1 後	45	1	○		○	○		○		
○			鍼灸応用実習Ⅰ	症候の分析，鍼灸適応疾患の鑑別判定，運動機能検査の意義，病態の鑑別	2 前	30	1			○	○		○		
○			鍼灸応用実習Ⅱ	徒手検査，スポーツ医学分野・老年医学分野への応用	2 前	30	1			○	○		○		
○			鍼灸応用実習Ⅲ	症候の分析，鍼灸適応疾患の鑑別判定，運動機能検査の意義，病態の鑑別	2 後	30	1			○	○		○		
○			鍼灸応用実習Ⅳ	四診を実際の臨床で運用出来るようになるまでの技術的習得	2 後	30	1			○	○		○		
○			鍼灸応用実習Ⅴ	鍼灸の適応判断	3 前	30	1			○	○		○		
○			鍼灸応用実習Ⅵ	東洋医学系	3 前	30	1			○	○		○		
○			鍼灸応用実習Ⅶ	鍼灸の適応判断	3 後	30	1			○	○		○		
○			鍼灸応用実習Ⅷ	東洋医学系	3 後	30	1			○	○		○		
○			鍼灸臨床実習Ⅰ	鍼灸臨床見学・体験	1 通	45	1			○	○	○	○	○	○
○			鍼灸臨床実習Ⅱ	鍼灸臨床見学・体験	2 通	45	1			○	○	○	○	○	○
○			鍼灸臨床実習Ⅲ	鍼灸臨床見学・体験	3 通	45	1			○	○	○	○	○	○

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			鍼灸臨床実習Ⅳ	鍼灸臨床見学・体験	12 3 通	45	1			○	○	○	○	○	○
○			鍼灸総合演習Ⅰ	問診，視診，打診，聴診，触診，生命徴候，神経系の検査，運動機能検査，生化学検査・理学検査，全身の徴候，感覚器，消化器，循環器，免疫，泌尿器，生殖器，神経・運動器	3 後	60	2		○		○		○		
○			鍼灸総合演習Ⅱ	診察法，臨床検査法，治療法，症候	3 後	60	2		○		○		○		
○			総合セミナーⅠ	国家試験過去問題の解析，傾向と対策について検討・考察	2 通	60	2		○		○		○		
○			総合セミナーⅡ	これまで学習した内容を総合的に復習し、国家試験合格および臨床に繋がる知識を身につける	3 通	60	2		○		○		○		
○			総合セミナーⅢ	これまで学習した内容を総合的に復習し、国家試験合格および臨床に繋がる知識を身につける	3 通	60	2		○		○		○		
合計				78 科目			94 (2655) 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 学科の定める全ての授業科目の単位修得の認定を受ける。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： シラバスによりあらかじめ明示された講義、演習、実習等に必要な時間の取得状況と当該科目の成績により認定を行う。	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。